

# 鑄物師の里上小鴨

(上古川)

旧上小鴨村内には江戸時代から5軒の鑄物師が集中し営業していた。齋江家以外は、創業時期は不詳である。鑄物を生業なりわいとして営業するためには、種々の要件が考えられるが、必要な原材料※ずく（銑、木炭、土砂、水など）の調達が必要であった。

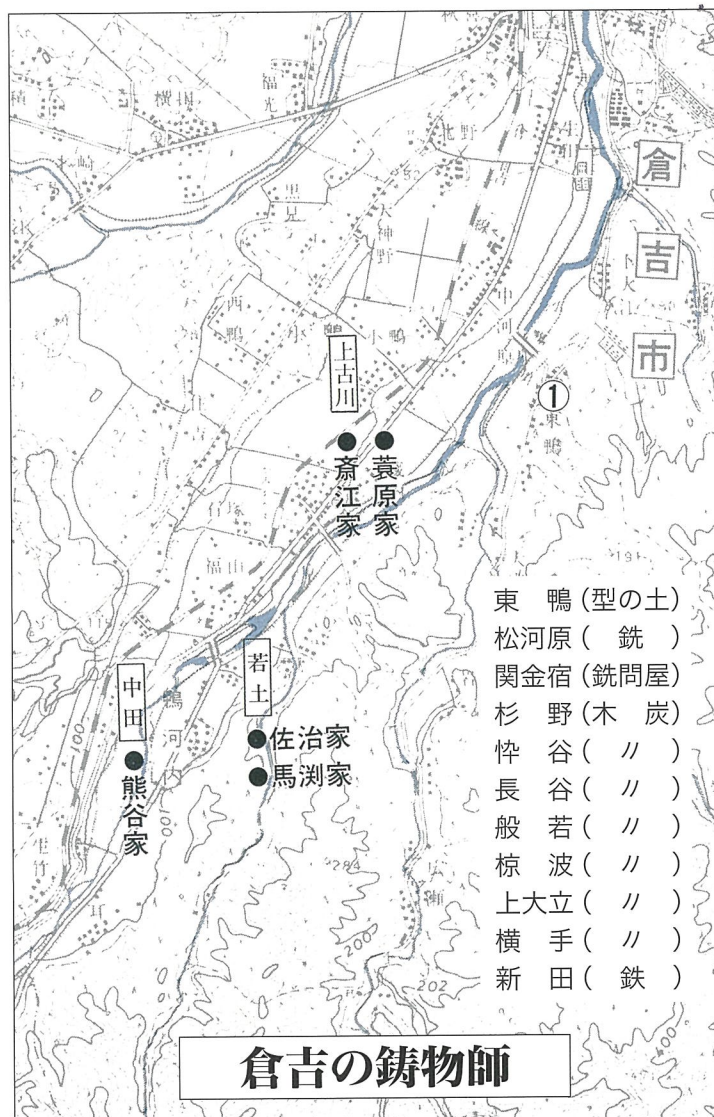
(1) 銑鉄ずくてつは特に、近くにたたら場（関金、三朝、琴浦）があり、比較的容易に調達できた。

(2) 共助・共援  
鑄物師ちやうていは朝廷の特許業種で特権とともに大きな献上金品の義務を負った。

(3) 営業形態

齋江、佐治…居職いしよく（工場を構えて操業）

蓑原、熊谷、馬淵…出職でしよく（注文に応じて出張して操業）



(注)

銑：砂鉄を用い、たたら操業によって得られる鉄。炭素分を多く含み、鑄物の材料に適す。